

代表取締役社長就任ご挨拶

代表取締役社長 菅生 健史

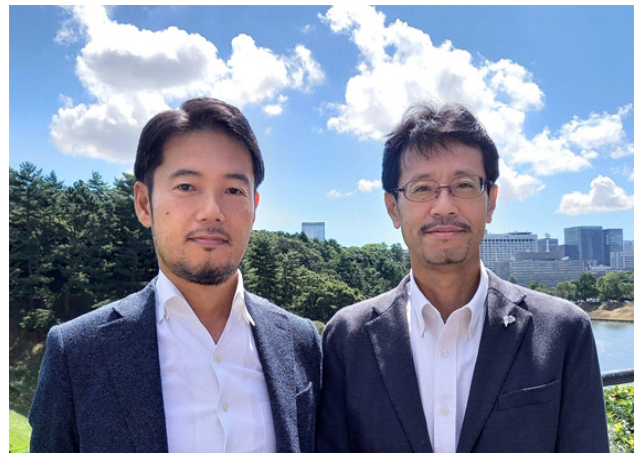
THE MAC JOURNAL を毎度ご愛読いただき、誠にありがとうございます。前任の上西由晃の後を受けて、9月1日付で三菱商事アグリサービス株式会社の社長に就任致しました、菅生健史（すごうたけし）です。誌面をお借りし、就任に際し、一言ご挨拶申し上げます。

平素より皆様からご高配賜り、厚く御礼申し上げます。

私は、大学卒業後の1995年に三菱商事に入社し、以来、化学品系のグループに所属、2度の海外赴任（韓国とアラブ首長国連邦）と事業投資先への出向を挟み、この8月に当社へ参りました。その間、韓国駐在時代には日本品緩効性肥料の韓国市場開拓や、ヨルダンからリン鉱石の韓国向け輸入等を通じ、肥料事業に携わった経験がありますが、皆様の知見に比べれば微々たるものですので、今後精一杯勉強し、皆様のお役に立てるよう精進する所存です。

肥料情勢に目を転じますと、昨秋に発生した中国の肥料法廷検査の発動、今年2月にはロシアによるウクライナ侵攻によるエネルギー価格高騰等の影響での尿素市況高騰やロシア・ベラルーシへの経済制裁の影響で同国産塩化加里の日本向け輸出がストップした事など、海外で発生した突発的事象により、日本は原料調達への逼迫と肥料価格の高騰に見舞われております。今回の事象により、日本は肥料資源を如何に海外に依存しているかを再認識し、当社のサービスの1つであります原料の安定調達を通じ皆様の事業のサポートをさせて頂き度いという思いを強くしております。また「2030年にはプラスチック被膜に頼らない農業へ」という政府方針の中、将来の肥料製品の環境変化に合わせ、ニーズに沿った製品の取り扱い拡充にも努める所存です。今後も目まぐるしく変わる肥料情勢を適時適確に捉え、本誌を通じて各種の情報を発信してまいりますので、引き続きご愛読のほど、宜しくお願い致します。

コロナ禍が引き続き続いておりますが、皆様のみますますのご健勝をお祈り申し上げます。



左:菅生社長 右:梅津常務 本店事務所近くの皇居外苑にて

常務取締役総務経理本部長就任ご挨拶

常務取締役総務経理本部長 梅津 亨

この度、これまで上西前社長が兼務しておりました総務経理本部長を拝命した梅津亨（うめつゆたか）と申します。誠に微力乍ら社業に貢献すべく、鋭意努力して参る所存です。今後とも御指導御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ミトコンドリアとバイオスティミュラントのお話

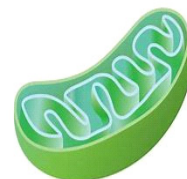
■ミトコンドリアとは

ミトコンドリアは動物や植物、真菌（カビ）等の細胞の中にある小さな器官です。細菌やウイルスにはありません。動物では細胞1つに数百個、植物では数千個あり、人間の約10%（重量）を占めています。ミトコンドリアが特徴的なのが細胞核にあるDNAとは別に小さなDNAを持っているということです。これははるか昔に、元々細菌だったミトコンドリアを細胞が取り込んだ痕跡と考えられています。また、植物においては葉緑体も同じように細胞核とは別のDNAを持っています。これは細胞がシアノバクテリアという光合成細菌を取り込んだ痕跡であり、このことにより植物が誕生したと考えられています。

■ミトコンドリアの役割

ミトコンドリアはエネルギーの大部分を作るという体内で極めて重要な役割を果たしています。エネルギーが無ければ呼吸すらできないですし、生命活動は止まってしまいます。

一方、エネルギーを作ると同時に活性酸素も作ってしまいます。ミトコンドリアが活性化しているときは活性酸素を除去する仕組みがうまく働いているのですが、活性が落ちてくると活性酸素を排出し、細胞やミトコンドリア自身に悪影響をあたえてしまうようです。



■ミトコンドリアを活性化するには

これほど生物に重要なミトコンドリアは、活性化することができれば細胞の活動も活性化することに大いにつながると考えられます。活性化する方法の一つとして、人間においてはミトコンドリアがエネルギーを生み出す過程で使われる有機酸（クエン酸等）やビタミンBを摂取すること等が挙げられます。同様に植物に対してもこのような成分を増やすことができればミトコンドリアを活性化できる可能性があると考えられます。その目的で何かを使用するとすれば、NPKをはじめとした肥料だけではなく、バイオスティミュラントと呼ばれるジャンルの資材になります。

■バイオスティミュラントとは

は直訳すると生物刺激となり、植物に栄養素ではなく刺激を与えることにより、作物であれば収量なり品質を改善する目的で使用する様々な資材です。作用機構は多種多様で解明できていない資材も多いのですが、大部分が天然物を原料として安全な物質とみなされています。現在世界的にもスポットが当たっているジャンルであり、国内メーカーも次々と新商品を開発してきています。

近年は異常気象が各地で見られるようになっており、作物に予期せぬストレス（高温・低温・多照・寡照・多湿・旱魃）が加わっています。その対策の一つとして、バイオスティミュラント資材を有効に活用し作物のストレス軽減を図るのも一考ではないでしょうか。（東京支店）

気象庁 梅雨明け速報値の撤回

気象庁は9月1日に過去最速と発表した梅雨明けの速報値を撤回、確定値を7月下旬と大幅に修正した。九州から関東甲信の梅雨明けを速報値よりも1カ月程度後ろにずらした結果、最速記録は消滅した格好となった。修正した理由として、速報値の宣言後に7月中旬に全国的に雨が続いた為だ。技術的な問題として偏西風の蛇行をうまく予測できなかったとしている。今までにない異例の対応となった。本誌616号（7月13日発行）にて過去最速の梅雨明けの記事を掲載しましたが、記録消滅致しました事を本紙にて通知させていただきます。記事の中でも関東地方では水稲において高温障害の懸念を指摘しましたが、実りの秋を迎え現実的に茨城県南からの便りではあきたこまちやコシヒカリなど高温障害が発生し登熟不良や基部未熟、腹白米が発生しているとの声を頂いております。

新経営陣の写真撮影は皇居半蔵門近くで行いましたが、ビルの多い東京都心でも沢山の緑と広い空が見える景色は気持ちよかったです。本店事務所にお越しの際は少し足を延ばしてみてください。 編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>